

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	社会福祉法人はびねす福祉会
事業所名	グループホーム おてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町一丁目9番13号
自己評価作成日	平成27年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能が維持出来るよう、日々の生活の中で能力に合わせて、生活役割に参加を促している。また、下肢筋力の低下を防ぐためにも散歩、ラジオ体操を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新居浜市の商店街の一角に立地する事業所で、特別養護老人ホームと老人保健施設が併設されている。ビルの4階に事業所はあり、「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」という理念のもと、個別ケアと自立支援に取り組んでいる。事業所は和風の造りになっており、障子戸や畳部屋は落ち着いた風情がある。職員は残存能力に応じて、利用者一人ひとりが役割を持てるように支援を行うことを大切にしており、家事やベランダの植物の世話などを一緒に行っている。また、経験豊かな職員が多く、利用者の笑顔を励みにしてきめ細かなケアを実践している。利用者が職員を気づかったり、感謝の言葉をかけている様子が印象的である。今年度法人で統一したという記録様式は、緻密で合理的な書式になっており、ページを開けば暮らしの様子が一目でわかり、介護計画に沿ってケアが行われていることがうかがえる。職員間で話し合いを重ね、情報を共有しながらサービスの向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 おてだま

(ユニット名) 紙ふうせん

記入者(管理者)

氏名 田中 宏美

評価完了日 27年 7月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、理念を意識した話し合いを行っている ケアプランにも反映し実現に向けて努力している</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念を踏まえて、職員が話し合っ作り上げた理念である「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」を大切に継承している。業務優先にならないよう、常に利用者に寄り添うケアを実践したいという思いが込められている。理念は事業所玄関やスタッフルームに掲示されている他、パンフレットにも掲載されており、利用者や家族にも周知できるようにしている。</p>	管理者は理念の重要性を認識しており、今後職員全体で理念に込められた意味を共有する機会を設けたいと考えている。あらためて理念を振り返る機会をもち、考案した職員らの思いを新入職員にも浸透させていくことで、日常のケアを振り返り、さらに質の向上を目指していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎日、近隣の店に買い物に行ったり、商店街のイベントに参加している 美容室、喫茶店を利用したり地域の文化祭などに出掛けている</p> <p>(外部評価) 利用者は職員と共に、毎日商店街の一角にあるスーパーへ買い物に出かけるため、店員とも顔馴染みの関係になっている。毎月商店街で開催されるイベントも楽しみにして参加している。町内会の好意で新居浜太鼓祭りの太鼓台が事業所の玄関に立ち寄ってくれ、間近に見ることができるので利用者は喜んでいる。また、近くの小学校の文化祭に参加したり、児童センターの学童が来て演劇や歌を披露してくれる。同一建物にある保育園児も訪れ、利用者は園児との交流を楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症についての講演会に参加を呼びかけ参加している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度、意見交換話し合いを行い、サービス向上に生かしている	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、婦人会、町内会役員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。利用者の状況報告の他、外出行事やイベント等の活動報告を行ない、事業所の理解が得られるよう努めている。協議の中で出た意見を職員間で話し合い、対応を考えて結果を返すようにしている。感染症流行期には、栄養士や看護師が講義を行い、予防のための知識を共有している。	運営推進会議で、家族からより多くの家族の意見を聞きたいという意見が出され、参加の呼びかけを工夫することにより新たな家族の参加が実現している。さらに、より多くの家族や地域の方々を巻き込んだ運営を行うため、職員からの意見も募り、行事との同時開催等の工夫を行って、参加者を増やしていくことに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点があれば市の担当者と話し合い、対応を協議している	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっている。議事録は毎回地域包括支援センターに持参して報告をしている。また、介護保険制度で解らないことがあれば問い合わせをし、指導を得ている。毎月介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ベランダの戸は開けている 外出の要求に応じ支援している 身体拘束の学習会に参加し、意識を高めている	
			(外部評価) 年1回、拘束をしないケアを議題にした学習会を設けて話し合っている。言葉の拘束についても、ユニット会や朝礼で注意喚起を行っている。事業所は4階にあり、エレベーターはオートロックになっているが、不穏な利用者には見守りを多くして、外に出ようとする時には職員が付き添って行くようにしている。転倒の危険がある利用者には、畳の上に布団を敷いて対応したこともある。また、法人全体で接遇を重視しており、職員は「接遇ブック」をいつも所持して、良い接遇を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学集会を行い虐待防止に努めている。スピーチロックについて特に気をつけ、事あるごとに都度、カンファレンスを開いている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学習する機会は設けたが、具体的な例はない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし関係者の理解を図っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度から意見や要望を考察し家族にも自由に意見を求めている その意見をカンファレンスに反映させている	
			(外部評価) 利用者と家族の距離が遠くならないよう、何でも言ってもらえる雰囲気を作るよう努めている。運営推進会議に参加して意見を述べてもらったり、各部屋に「気づきノート」を置いて、暮らしの様子の記録や写真を添付して、訪れた家族に見てもらおうようにしている。時には家族からの返信が記載されていることもある。遠方の家族にもその都度電話をかけて様子を知らせ、家族との信頼関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会やリーダー会など、機会を設け提案や意見を聞き反映させている	
			(外部評価) 職員会、ユニット会、カンファレンス等、その日の勤務者を除いて職員全員が集まる機会は多く、職員は意見を出しやすい雰囲気があると感じている。法人全体で研修への参加を奨励しており、地域密着型サービス協会が実施する研修会に交代で参加し、研修した内容は月1回開催する職員会で伝達講習を行っている。また、職能手当制度があり、資格取得を希望して挑戦する職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている 資格試験にも積極的に挑戦している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への研修や地区の研修に参加している	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に家族の心配事、意見要望など確認している	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「共に生活する」として、毎日の会話や生活の中で得意な事を教えてもらったり、共に楽しみ支えあう関係作りを心掛けている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠の場合、出来るだけ関わりを依頼したり近状を伝えたり共に支援していくようにしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすいよう配慮している	
			(外部評価) 入居前に行っていたスーパーに買い物に行くことができ、利用者や家族に喜ばれている。美容院も近いので、馴染みの客として利用している。同じ建物内にあるケアハウスの友人が訪ねて来たり、盆、正月に自宅に帰り外泊する利用者もいる。また、行事を3ユニットが合同で開催し交流している。事業所の中心にあるオープンスペースは入居者の交流の場となっており、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も相談にのったり、移転先の事業所に面会に行ったりしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？と常に考えながら、会話の中や表情から推し量るようにしている	
			(外部評価) 職員はあらゆる機会をとらえて、一人ひとりの思いを聴き取るよう努めている。入浴介助を行う時や、車に同乗して買い物に出掛ける際を個別に話しを聞くことができる好機と考え、意向の把握に努めている。思いを表現することが困難な利用者には、日頃の様子をよく観察し、心がけて声かけをするようにしている。職員は、利用者と思慮疎通ができることを喜びとし、仕事のやりがいを感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取り、把握している 生活アセスメントシートに記入してもらっている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子、24時間シートから一人一人の現状把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながらケアプランを作成している 新たな変化があればカンファレンス等で検討し、実践出来るようにしている	
			(外部評価) 初回介護計画は、計画作成担当者が本人や家族の意向を聞いて作成し、実践した上でケース会議を開催して見直しを行っている。職員は介護計画を念頭に置きながらケアを実践し、毎日の実施状況をチェックして2週に1回行われるケース会議で話し合っている。利用者の状態の変化がある時はその都度、無い場合は6か月ごとに介護計画の見直しを行い、現状に即した計画になっているか検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気付き」に重点をおいている 気付きノート、申し送り事項の様式を別に作成し情報交換、共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により受診介助や買い物等、柔軟に対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所の公園へ散歩に行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診時家族の支援が得ら れない時は職員が同行している ほぼ家族支援がある	
			(外部評価) 利用者は、入居前からのかかりつけ医を家族が付き 添って受診している。付き添いが困難な家族には隣接 する病院を紹介し、職員が付き添って定期的を受診で きるよう支援している。歯科は必要に応じて往診して もらっている。また、専門科への通院は、通常家族が 付き添うが、困難な場合は職員が付き添うようにして いる。緊急を要する場合は、看護師と連携を取りなが ら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があればその都度看護 師に相談している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合、頻回に面会へ行き、常に医療関係者や 家族と早期退院に向けて調整している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 1名看取りに取り組んだ事がある 利用当初から、重度化についてはホームの方針を理解 して頂くよう話し合いは重ねている	
			(外部評価) 事業所は看取りに関する指針を作成しており、書面で 家族等へ説明を行っている。以前に看取りを行ったこ とがあり、看取りの経験がある職員もいる。重度化に 伴い、利用者が手厚いケアが受けられるよう法人の他 のサービス利用も検討しながら支援している。利用者 の状況も考慮し、家族に事業所で対応できる内容を説 明して理解を得、協力体制が取れるようであれば要望 に応じて看取りを行いたいと準備をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で非難訓練を年2回実施している (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、夜間想定で避難訓練を行っている。夜勤者があわてず避難待機場所であるベランダまで避難誘導ができるよう繰り返し訓練を実施している。過去に水害で地下が浸水した経験を踏まえ、備蓄品は3階に保管するようにし、定期的に点検をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会や研修会等で「言葉使い、接遇」に関して注意喚起している プライバシーに関しても守秘義務に努めている (外部評価) 排泄や脱衣介助を行う時は必ず戸を閉める等、羞恥心に配慮して支援している。配慮ができていないと気付いた時は、互いに声をかけ注意するようにしている。利用者の呼び方については苗字や名前にさん付けで呼ぶようにし、過度の馴れ合いにならないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者が自己決定出来るよう尊重している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の流れはあるが、一人一人の状況に合わせて柔軟に対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の服選びは自身で選んでいる 外出時はオシャレを楽しむよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立に取り入れている 買い物、調理の準備、片付けなど利用者と一緒にしている 食事中、BGMを流している	
			(外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。毎日買い物をし、当番の職員が手作りしており、利用者はゆで卵や玉ねぎの皮むきなどを手伝っている。また、食後はそれぞれが下膳し、食器を洗う利用者もいる。職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気、「美味しかったあ!」「ありがとう。」という会話が交わされていた。誕生日には利用者の希望する料理が用意され、皆でお祝いしている。母の日、敬老の日、節分、七夕等行事には特別食が用意され、時には弁当を注文することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量など記録をとりながら体調を観察して、一人一人に応じた支援を行っている やわらか食のていきょうもしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを支援している 毎日コップ、歯ブラシを預かり消毒をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録を記入し、定期的に声掛け、誘導を行っている できるだけ自分の下着で過ごせれるよう支援している	
			(外部評価) ユニット内2か所にあるトイレはいずれも広く、車椅子での利用ができる。できる限り布パンツで過ごせるよう支援しており、現在おむつを使用する利用者はいない。毎日排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、頃合いを見計らってそれとなくトイレに誘導している。夜間帯のみポータブルトイレや紙パンツを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録に記入し、状態を把握している 水分摂取にも気をつけている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の希望に沿うよう無理強いせず、支援している	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、毎日入浴したい利用者には希望に沿えるよう配慮している。家庭浴槽であるが広々としており、移乗スペースが設けられていて、安全に浴槽に入れるよう工夫されている。現在対象となる利用者はいないが、浴槽に入れない利用者は、足浴をしながらシャワー浴をするようにしている。また、入浴時、足のマッサージをして喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 表情や態度を見ながら休息を促している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自のファイルケースに整理し、職員が分かりやすいようにしている 新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験を生かしてもらえよう、役割作りを支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出要求に応じている 希望する場所によっては家族に支援を呼びかけている	
			(外部評価) 利用者は、気候の良い時期は毎日職員と共に近くのスーパーに買い物に出かける。毎月開催される商店街のイベント見物にも出かけて楽しんでいる。ベランダや屋上から花火を楽しむこともできる。また、桜、芍薬、紫陽花、紅葉など、季節の花々を楽しむためドライブに出かけている。近くの喫茶店に出かけ、コーヒーや軽食を楽しむこともある。家族の協力を得てお墓参りや外出に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じて現金を所持し、使っている (現在1名)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関、廊下、リビング、和室など季節の花やタペストリーでしつらえを工夫している 比較的スペースが広く移動しやすい	
			(外部評価) 月2回行われるアレンジ教室で作成した生花がいたる所に活けられ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ちが良い。オープンキッチンと畳コーナー、椅子席、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。畳コーナーに置かれた和琴は利用者の所有で時々演奏をしてくれる。3ユニットの中央に共有空間があり、卓球台やソファが置かれていて夕食後の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室や中庭を利用している 腰をかけ、ゆっくり過ごせるようにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や家族の写真を置いている 好みの物を飾っている	
			(外部評価) 居室にはエアコン、収納棚、洗面台、ベッドが備え付けられており、和室には各部屋にトイレがある。窓や玄関引き戸に障子が使用されていて、職員と利用者が協力して張替えを行っている。馴染みの箆笥や椅子、テレビ、鏡等を持ち込んでいる利用者、位牌を置いて毎朝の祈りを欠かさない利用者もいる。また、壁には家族写真や手作りの作品が飾られ、居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているのかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	社会福祉法人はびねす福祉会
事業所名	グループホーム おてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町一丁目9番13号
自己評価作成日	平成27年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほとんど毎日、利用者と外出している(散歩、買い物など) 調理加工は参加表を作り出来た事、参加状況を記入している 全員少しでも出来ることを捜して楽しんでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新居浜市の商店街の一角に立地する事業所で、特別養護老人ホームと老人保健施設が併設されている。ビルの4階に事業所はあり、「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」という理念のもと、個別ケアと自立支援に取り組んでいる。事業所は和風の造りになっており、障子戸や畳部屋は落ち着いた風情がある。職員は残存能力に応じて、利用者一人ひとりが役割を持てるように支援を行うことを大切にしており、家事やベランダの植物の世話などを一緒に行っている。また、経験豊かな職員が多く、利用者の笑顔を励みにしてきめ細かなケアを実践している。利用者が職員を気づかったり、感謝の言葉をかけている様子が印象的である。今年度法人で統一したという記録様式は、緻密で合理的な書式になっており、ページを開けば暮らしの様子が一目でわかり、介護計画に沿ってケアが行われていることがうかがえる。職員間で話し合いを重ね、情報を共有しながらサービスの向上に努めている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 おてだま

(ユニット名) 風くるま

記入者(管理者)

氏名 田中 宏美

評価完了日 27年 7月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、理念を意識した話し合いを行っている ケアプランにも反映し実現に向けて努力している</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念を踏まえて、職員が話し合っって作り上げた理念である「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」を大切に継承している。業務優先にならないよう、常に利用者に寄り添うケアを実践したいという思いが込められている。理念は事業所玄関やスタッフルームに掲示されている他、パンフレットにも掲載されており、利用者や家族にも周知できるようにしている。</p>	管理者は理念の重要性を認識しており、今後職員全体で理念に込められた意味を共有する機会を設けたいと考えている。あらためて理念を振り返る機会をもち、考案した職員らの思いを新入職員にも浸透させていくことで、日常のケアを振り返り、さらに質の向上を目指していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎日、近隣の店に買い物に行ったり、商店街のイベントに参加している 美容室、喫茶店を利用したり地域の文化祭などに出掛けている</p> <p>(外部評価) 利用者は職員と共に、毎日商店街の一角にあるスーパーへ買い物に出かけるため、店員とも顔馴染みの関係になっっている。毎月商店街で開催されるイベントも楽しみにして参加している。町内会の好意で新居浜太鼓祭りの太鼓台が事業所の玄関に立ち寄ってくれ、間近に見ることができるので利用者は喜んでいる。また、近くの小学校の文化祭に参加したり、児童センターの学童が来て演劇や歌を披露してくれる。同一建物にある保育園児も訪れ、利用者は園児との交流を楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 機会があれば地域の人にアプローチしている 運営推進委員会等で理解を深めている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) 定期的開催しており、常に情報発信をしながら意見を 求めている 評価説明を行い話し合っている (外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、婦人会、町内会役員、 市職員の参加を得て2か月に1回開催している。利用者 の状況報告の他、外出行事やイベント等の活動報告を行 ない、事業所の理解が得られるよう努めている。協議の 中で出た意見を職員間で話し合い、対応を考えて結果を 返すようにしている。感染症流行期には、栄養士や看護 師が講義を行い、予防のための知識を共有している。	運営推進会議で、家族からより多くの家族の意見を聞き たいという意見が出され、参加の呼びかけを工夫するこ とにより新たな家族の参加が実現している。さらに、よ り多くの家族や地域の方々を巻き込んだ運営を行うた め、職員からの意見も募り、行事との同時開催等の工夫 を行って、参加者を増やしていくことに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 疑問点や情報の確認など、担当者との連絡は欠かさな いようにしている (外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解 してもらっている。議事録は毎回地域包括支援センター に持参して報告をしている。また、介護保険制度で解ら ないことがあれば問い合わせをし、指導を得ている。毎 月介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ベランダの戸は開けている 外出の要求に応じ支援している 身体拘束の学習会に参加し、意識を高めている 内外の研修に参加し、理解を深めよりよいケアに取り組 んでいる (外部評価) 年1回、拘束をしないケアを議題にした学習会を設けて 話し合っている。言葉の拘束についても、ユニット会や 朝礼で注意喚起を行っている。事業所は4階にあり、エ レベーターはオートロックになっているが、不穏な利用 者には見守りを多くして、外に出ようとする時には職員 が付き添って行くようにしている。転倒の危険がある利 用者には、畳の上に布団を敷いて対応したこともある。 また、法人全体で接遇を重視しており、職員は「接遇 ブック」をいつも所持して、良い接遇を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法や拘束の研修を行い、カンファレンスでも取り上げ虐待防止の意識を高めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度について学ぶ機会はまだ持っていない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし関係者の理解を図っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている それをカンファレンスに反映させている	
			(外部評価) 利用者や家族の距離が遠くならないよう、何でも言ってもらえる雰囲気を作るよう努めている。運営推進会議に参加して意見を述べてもらったり、各部屋に「気づきノート」を置いて、暮らしの様子の記録や写真を添付して、訪れた家族に見てもらおうようにしている。時には家族からの返信が記載されていることもある。遠方の家族にもその都度電話をかけて様子を知らせ、家族との信頼関係を築くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ、意見提言を聞いている リーダー会やカンファレンス等で意見を出している	
			(外部評価) 職員会、ユニット会、カンファレンス等、その日の勤務者を除いて職員全員が集まる機会は多く、職員は意見を出しやすい雰囲気があると感じている。法人全体で研修への参加を奨励しており、地域密着型サービス協会が実施する研修会に交代で参加し、研修した内容は月1回開催する職員会で伝達講習を行っている。また、職能手当制度があり、資格取得を希望して挑戦する職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている 資格試験にむけても積極的に取り組んでいる	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区の研修会に参加している	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い、状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「共に生活する人」として、得意な事を教えてもらったり、共に楽しみ、支え合う関係作りを心かけている	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、出来るだけ関わりを依頼したり、本人の情報を頻回に伝えたり共に支援していくようにしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすいように配慮している (外部評価) 入居前に行っていたスーパーに買い物に行くことができ、利用者や家族に喜ばれている。美容院も近いので、馴染みの客として利用している。同じ建物内にあるケアハウスの友人が訪ねて来たり、盆、正月に自宅に帰り外泊する利用者もいる。また、行事を3ユニットが合同で開催し交流している。事業所の中心にあるオープンスペースは入居者の交流の場となっており、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に、常に注意を払い「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も家族の相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？と言うことを常に考えながら会話、表情などから推し量るようにしている 生活動作の中でよく観察し検討している	
			(外部評価) 職員はあらゆる機会をとらえて、一人ひとりの思いを聴き取るよう努めている。入浴介助を行う時や、車に同乗して買い物に出掛ける際を個別に話しを聞くことができる好機と考え、意向の把握に努めている。思いを表現することが困難な利用者には、日頃の様子をよく観察し、心がけて声かけをするようにしている。職員は、利用者との意思疎通ができることを喜びとし、仕事のやりがいを感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、ケアマネージャー、以前利用していた事業所からの聞き取りから把握している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子、24時間シートから一人一人の現状把握に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見、専門医のアドバイスを聞き、ケース会で話し合いながらケアプランを作成している 気づきがあれば、その都度情報交換をしている	
			(外部評価) 初回介護計画は、計画作成担当者が本人や家族の意向を聞いて作成し、実践した上でケース会議を開催して見直しを行っている。職員は介護計画を念頭に置きながらケアを実践し、毎日の実施状況をチェックして2週に1回行われるケース会議で話し合っている。利用者の状態の変化がある時はその都度、無い場合は6か月ごとに介護計画の見直しを行い、現状に即した計画になっているか検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている 職員間で情報を交換し、共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により受診介助や買い物、お墓参りなど柔軟に対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の商店街のイベントに参加したり、毎日食材の買い物など近所のお店を利用したり、散歩に行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、家族支援が困難な時、受診の時は職員が同行している (外部評価) 利用者は、入居前からのかかりつけ医を家族が付き添って受診している。付き添いが困難な家族には隣接する病院を紹介し、職員が付き添って定期的を受診できるよう支援している。歯科は必要に応じて往診してもらっている。また、専門科への通院は、通常家族が付き添うが、困難な場合は職員が付き添うようにしている。緊急を要する場合は、看護師と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があればその都度看護師に相談している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合、頻回に面会へ行き、常に医療関係者や家族と早期退院に向けて調整している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ニーズがあれば、対応出来るようにしている 入所当初から重度化についてはホームの方針を理解してもらえるよう話し合っている (外部評価) 事業所は看取りに関する指針を作成しており、書面で家族等へ説明を行っている。以前に看取りを行ったことがあり、看取りの経験がある職員もいる。重度化に伴い、利用者が手厚いケアが受けられるよう法人の他のサービス利用も検討しながら支援している。利用者の状況も考慮し、家族に事業所に対応できる内容を説明して理解を得、協力体制が取れるようであれば要望に応じて看取りを行いたいと準備をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で非難訓練を年2回実施している (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、夜間想定で避難訓練を行っている。夜勤者があわてず避難待機場所であるベランダまで避難誘導ができるよう繰り返し訓練を実施している。過去に水害で地下が浸水した経験を踏まえ、備蓄品は3階に保管するようにし、定期的に点検をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会等で「言葉使い プライバシー」に関して守秘義務に努めている 接遇ハンドブックを常に携帯し意識づけをしている (外部評価) 排泄や脱衣介助を行う時は必ず戸を閉める等、羞恥心に配慮して支援している。配慮ができていないと気付いた時は、互いに声をかけ注意するようにしている。利用者の呼び方については苗字や名前にさん付けで呼ぶようにし、過度の馴れ合いにならないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者と常に会話し、希望や好みなどを聞き出す事を心掛けている 自己決定が出来るよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員が業務優先にならないようにしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整容や、外出時はオシャレを楽しむよう支援している 馴染みの美容院を利用している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と買い物に行き、調理、盛り付け、片づけを一緒にしている 食事中はリラックス出来るようBGMをかけている (外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。毎日買い物をし、当番の職員が手作りしており、利用者はゆで卵や玉ねぎの皮むきなどを手伝っている。また、食後はそれぞれが下膳し、食器を洗う利用者もいる。職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気、「美味しかったあ!」「ありがとう。」という会話が交わされていた。誕生日には利用者の希望する料理が用意され、皆でお祝いしている。母の日、敬老の日、節分、七夕等行事には特別食が用意され、時には弁当を注文することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量の記録をとりながら、体調を観察している 状態により、個々に応じた食形態を提供している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを支援している 毎日コップ、歯ブラシを預かり消毒をしている 義歯の洗浄も定期的に行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 24時間シートの排泄欄に記入し、適切な誘導を行っている	
			(外部評価) ユニット内2か所にあるトイレはいずれも広く、車椅子での利用ができる。できる限り布パンツで過ごせるよう支援しており、現在おむつを使用する利用者はいない。毎日排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、頃合いを見計らってそれとなくトイレに誘導している。夜間帯のみポータブルトイレや紙パンツを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録を確認しながら把握し、食事、水分量に気を付けながら身体を動かすような支援をしている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴は出来ていないが、なるべく一人一人の希望に沿うように入浴支援をしている	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、毎日入浴したい利用者には希望に沿えるよう配慮している。家庭浴槽であるが広々としており、移乗スペースが設けられていて、安全に浴槽に入れるよう工夫されている。現在対象となる利用者はいないが、浴槽に入れない利用者は、足浴をしながらシャワー浴をするようにしている。また、入浴時、足のマッサージをして喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動性を上げるようにし、穏やかな就寝にむけ支援している 表情や態度を見ながら休息を促している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して、職員が分かりやすいようにしている 新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気を付けている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験を活かしてもらえるような行事、役割を作り支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できる範囲で外出要求に答えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけているが、十分とは言えない	
			(外部評価) 利用者は、気候の良い時期は毎日職員と共に近くのスーパーに買い物に出かける。毎月開催される商店街のイベント見物にも出かけて楽しんでいる。ベランダや屋上から花火を楽しむこともできる。また、桜、芍薬、紫陽花、紅葉など、季節の花々を楽しむためドライブに出かけている。近くの喫茶店に出かけ、コーヒーや軽食を楽しむこともある。家族の協力を得てお墓参りや外食に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、所持している利用者はいない	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れ、しつらえを工夫している 利用者と一緒に季節の物を飾ったりしている	
			(外部評価) 月2回行われるアレンジ教室で作成した生花がいたる所に活けられ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ちが良い。オープンキッチンと畳コーナー、椅子席、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。畳コーナーに置かれた和琴は利用者の所有で時々演奏をしてくれる。3ユニットの中央に共有空間があり、卓球台やソファが置かれていて夕食後の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やソファを利用している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真を置いている	
			(外部評価) 居室にはエアコン、収納棚、洗面台、ベッドが備え付けられており、和室には各部屋にトイレがある。窓や玄関引き戸に障子が使用されていて、職員と利用者が協力して張替えを行っている。馴染みの箆笥や椅子、テレビ、鏡等を持ち込んでいる利用者、位牌を置いて毎朝の祈りを欠かさない利用者もいる。また、壁には家族写真や手作りの作品が飾られ、居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害になっているのかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	社会福祉法人はびねす福祉会
事業所名	グループホーム おてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町一丁目9番13号
自己評価作成日	平成27年7月25日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)	
基本情報リンク先	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

混乱の見られる利用者の原因を見極め、安心してもらえるよう努力している(トイレ 帰宅願望 など)
調理過程で、出来ることはすこしでもみんなで力を合わせ、食事を作っている(ちぎる まぜる 味見 など)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新居浜市の商店街の一角に立地する事業所で、特別養護老人ホームと老人保健施設が併設されている。ビルの4階に事業所はあり、「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」という理念のもと、個別ケアと自立支援に取り組んでいる。事業所は和風の造りになっており、障子戸や畳部屋は落ち着いた風情がある。職員は残存能力に応じて、利用者一人ひとりが役割を持てるように支援を行うことを大切にしており、家事やペランダの植物の世話などを一緒に行っている。また、経験豊かな職員が多く、利用者の笑顔を励みにしてきめ細かなケアを実践している。利用者が職員を気づかったり、感謝の言葉をかけている様子が印象的である。今年度法人で統一したという記録様式は、緻密で合理的な書式になっており、ページを開けば暮らしの様子が一目でわかり、介護計画に沿ってケアが行われていることがうかがえる。職員間で話し合いを重ね、情報を共有しながらサービスの向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 おてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)

氏名 田中 宏美

評価完了日 27年 7月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、理念を意識した話し合いを行っている ケアプランにも反映し実現に向けて努力している</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念を踏まえて、職員が話し合っ作り上げた理念である「①一人ひとりに寄り添って、②その人らしく生き生きと、③地域とのつながりを大切に」を大切に継承している。業務優先にならないよう、常に利用者に寄り添うケアを実践したいという思いが込められている。理念は事業所玄関やスタッフルームに掲示されている他、パンフレットにも掲載されており、利用者や家族にも周知できるようにしている。</p>	管理者は理念の重要性を認識しており、今後職員全体で理念に込められた意味を共有する機会を設けたいと考えている。あらためて理念を振り返る機会をもち、考案した職員らの思いを新入職員にも浸透させていくことで、日常のケアを振り返り、さらに質の向上を目指していくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎日、近隣の店に買い物に行ったり、商店街のイベントに参加している 美容室、喫茶店を利用したり地域の文化祭などに出掛けている 4階にあるため外部から入りにくいことはある</p> <p>(外部評価) 利用者は職員と共に、毎日商店街の一角にあるスーパーへ買い物に出かけるため、店員とも顔馴染みの関係になっている。毎月商店街で開催されるイベントも楽しみにして参加している。町内会の好意で新居浜太鼓祭りの太鼓台が事業所の玄関に立ち寄ってくれ、間近に見ることができるので利用者は喜んでいる。また、近くの小学校の文化祭に参加したり、児童センターの学童が来て演劇や歌を披露してくれる。同一建物にある保育園児も訪れ、利用者は園児との交流を楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について、勉強会を開いたり「認知症を考える会」に参加している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	(自己評価) 意見交換をし、ホームの評価を報告しサービスの向上に 活かしている	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、婦人会、町内会役員、 市職員の参加を得て2か月に1回開催している。利用者 の状況報告の他、外出行事やイベント等の活動報告を行 ない、事業所の理解が得られるよう努めている。協議の 中で出た意見を職員間で話し合い、対応を考えて結果を 返すようにしている。感染症流行期には、栄養士や看護 師が講義を行い、予防のための知識を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的 に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点がある時は市の担当者と話し合い、対応 を協議している	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解 してもらっている。議事録は毎回地域包括支援センター に持参して報告をしている。また、介護保険制度で解ら ないことがあれば問い合わせをし、指導を得ている。毎 月介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関、ベランダの戸は開けているが、4階にある為エレ ベーターには電子ロックがある 職員はそれを熟知しており、利用者の希望に合わせ、外 出の頻度を多くするよう努めている 身体拘束の学習会に参加し、意識を高めている	
			(外部評価) 年1回、拘束をしないケアを議題にした学習会を設けて 話し合っている。言葉の拘束についても、ユニット会や 朝礼で注意喚起を行っている。事業所は4階にあり、エ レベーターはオートロックになっているが、不穏な利用 者には見守りを多くして、外に出ようとする時には職員 が付き添って行くようにしている。転倒の危険がある利 用者には、畳の上に布団を敷いて対応したこともある。 また、法人全体で接遇を重視しており、職員は「接遇 ブック」をいつも所持して、良い接遇を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会を実施する等し、虐待の防止に努めている 言葉かけでも精神的虐待になっていないか注意している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 後見人制度の対象者は現在1名 勉強会の機会をもつように努めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、退去時にも同様にし関係者の理解を図っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉や態度から意見や要望を考察したり、訪ねたりしてニーズを話し合っている 出た意見は、カンファレンスに活かしている	
			(外部評価) 利用者と家族の距離が遠くならないよう、何でも言ってもらえる雰囲気を作るよう努めている。運営推進会議に参加して意見を述べてもらったり、各部屋に「気づきノート」を置いて、暮らしの様子の記録や写真を添付して、訪れた家族に見てもらおうようにしている。時には家族からの返信が記載されていることもある。遠方の家族にもその都度電話をかけて様子を知らせ、家族との信頼関係を築くよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会やリーダー会、ユニット会などで意見を聞き、反映出来るようにしている (外部評価) 職員会、ユニット会、カンファレンス等、その日の勤務者を除いて職員全員が集まる機会が多く、職員は意見を出しやすい雰囲気があると感じている。法人全体で研修への参加を奨励しており、地域密着型サービス協会が実施する研修会に交代で参加し、研修した内容は月1回開催する職員会で伝達講習を行っている。また、職能手当制度があり、資格取得を希望して挑戦する職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修への参加やグループホームの研修会に参加している	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時は、少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接、面会時に家族の心配事、意見要望など十分時間をとり傾聴に努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族との話し合いで、状況を見極めサービスの利用紹介をし納得しながら利用出来るように対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「共に生活をする人」として得意な事を教えてもらったり、昔の話を聞いたり、支え合う関係作りを心掛けている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との関係が疎遠にならないよう、出来るだけ関わりを依頼したり本人の情報を伝えたり、共に支援していくようにしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすい環境に配慮している	
			(外部評価) 入居前に行っていたスーパーに買い物に行くことができ、利用者や家族に喜ばれている。美容院も近いので、馴染みの客として利用している。同じ建物内にあるケアハウスの友人が訪ねて来たり、盆、正月に自宅に帰り外泊する利用者もいる。また、行事を3ユニットが合同で開催し交流している。事業所の中心にあるオープンスペースは入居者の交流の場となっており、新たな馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係について、常に注意を払い「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している 利用者同士の助け合いが上手く出来るようにさりげなく見守っている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、家族の相談にのったり移転先の他事業所に面会に行ったりしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや希望を上手く表現出来ない利用者があるので、表情や態度で想像し反応を見ながら対応している (外部評価) 職員はあらゆる機会をとらえて、一人ひとりの思いを聴き取るよう努めている。入浴介助を行う時や、車に同乗して買い物に出掛ける際を個別に話を聞くことができる好機と考え、意向の把握に努めている。思いを表現することが困難な利用者には、日頃の様子をよく観察し、心がけて声かけをするようにしている。職員は、利用者と思疎通ができることを喜びとし、仕事のやりがいを感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取りなどから、把握している 生活アセスメントシートに記入してもらい活用している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子、24時間シートから一人一人の現状把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながらケアプランを作成している	
			(外部評価) 初回介護計画は、計画作成担当者が本人や家族の意向を聞いて作成し、実践した上でケース会議を開催して見直しを行っている。職員は介護計画を念頭に置きながらケアを実践し、毎日の実施状況をチェックして2週に1回行われるケース会議で話し合っている。利用者の状態の変化がある時はその都度、無い場合は6か月ごとに介護計画の見直しを行い、現状に即した計画になっているか検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のケース記録は介護計画をもとに記録している 気づきノート、申し送り事項の様式を別に作成し情報交換を共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物など、柔軟に対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の催し物に参加したり、図書館を利用している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診時家族の支援が得られない時は職員が同行している 家族支援を基本としている</p> <p>(外部評価) 利用者は、入居前からのかかりつけ医を家族が付き添って受診している。付き添いが困難な家族には隣接する病院を紹介し、職員が付き添って定期的に受診できるよう支援している。歯科は必要に応じて往診してもらっている。また、専門科への通院は、通常家族が付き添うが、困難な場合は職員が付き添うようにしている。緊急を要する場合は、看護師と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があればその都度看護師に相談している</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合、頻回に面会へ行き、常に医療関係者や家族と早期退院に向けて調整している</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 一名、看取りに取り組んだ</p> <p>(外部評価) 事業所は看取りに関する指針を作成しており、書面で家族等へ説明を行っている。以前に看取りを行ったことがあり、看取りの経験がある職員もいる。重度化に伴い、利用者が手厚いケアが受けられるよう法人の他のサービス利用も検討しながら支援している。利用者の状況も考慮し、家族に事業所でも対応できる内容を説明して理解を得、協力体制が取れるようであれば要望に応じて看取りを行いたいと準備をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で非難訓練を年2回実施している (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと、夜間想定で避難訓練を行っている。夜勤者があわてず避難待機場所であるベランダまで避難誘導ができるよう繰り返し訓練を実施している。過去に水害で地下が浸水した経験を踏まえ、備蓄品は3階に保管するようにし、定期的に点検をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会や研修会、ケース会等で常に「言葉使い、接遇」に関して注意喚起を行っている プライバシーに関しても守秘義務に努めている (外部評価) 排泄や脱衣介助を行う時は必ず戸を閉める等、羞恥心に配慮して支援している。配慮ができていないと気付いた時は、互いに声をかけ注意するようになっている。利用者の呼び方については苗字や名前にさん付けて呼ぶようにし、過度の馴れ合いにならないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の会話で個人の趣味や好みなどを聞きながら、自己決定出来るよう心がけ、決定を尊重している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、一人一人の状況に合わせ柔軟に対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 離床時に好みの服を選び、外出時はオシャレを楽しむよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物へ行き、調理、盛り付け等一緒に行っている 同じ食卓に向かい合いながら楽しく食事出来る雰囲気を作っている リラックス出来る環境を提供し、BGMを流している	
			(外部評価) 朝食と夕食は複合施設の厨房で作られた料理が運ばれてくるが、昼食は各ユニットで調理している。毎日買い物をし、当番の職員が手作りしており、利用者はゆで卵や玉ねぎの皮むきなどを手伝っている。また、食後はそれぞれが下膳し、食器を洗う利用者もいる。職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気、 「美味しかったあ！」「ありがとう。」という会話が交わされていた。誕生日には利用者の希望する料理が用意され、皆でお祝いしている。母の日、敬老の日、節分、七夕等行事には特別食が用意され、時には弁当を注文することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取の記録を取りながら、体調を観察し個々に応じた支援をしている 食べやすい食形態にしたり、無理なく好みの物が取れるよう工夫している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを支援している 毎日コップ、歯ブラシを預かり消毒をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 24時間シートの排泄記録表を記入し、適切な誘導を行っている	
			(外部評価) ユニット内2か所にあるトイレはいずれも広く、車椅子での利用ができる。できる限り布パンツで過ごせるよう支援しており、現在おむつを使用する利用者はいない。毎日排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、頃合いを見計らってそれとなくトイレに誘導している。夜間帯のみポータブルトイレや紙パンツを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 24時間シートに排泄記録表を作成し状態を把握しながら食事の内容を検討している 水分補給にも気を付け、摂取を促している ラジオ体操、散歩操等で体を動かすような支援をしている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に沿えるよう支援している 毎日の希望があれば、入って頂き、2日に1度は入浴支援をしている	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、毎日入浴したい利用者には希望に沿えるよう配慮している。家庭浴槽であるが広々としており、移乗スペースが設けられていて、安全に浴槽に入れるよう工夫されている。現在対象となる利用者はいないが、浴槽に入れない利用者は、足浴をしながらシャワー浴をするようにしている。また、入浴時、足のマッサージをして喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動性を上げ、穏やかな就寝が出来るよう支援している 表情や態度を見ながら休息を促している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して、職員が分かりやすいようにしている 新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気を付けている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験を活かしてもらえるような行事、役割を作り支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できる範囲で外出要求に答えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけているが、十分とは言えない	
			(外部評価) 利用者は、気候の良い時期は毎日職員と共に近くのスーパーに買い物に出かける。毎月開催される商店街のイベント見物にも出かけて楽しんでいる。ベランダや屋上から花火を楽しむこともできる。また、桜、芍薬、紫陽花、紅葉など、季節の花々を楽しむためドライブに出かけている。近くの喫茶店に出かけ、コーヒーや軽食を楽しむこともある。家族の協力を得てお墓参りや外食に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、現金を所持している利用者は3名	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している	
			(外部評価) 月2回行われるアレンジ教室で作成した生花がいたる所に活けられ、掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ちが良い。オープンキッチンと畳コーナー、椅子席、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。畳コーナーに置かれた和琴は利用者の所有で時々演奏をしてくれる。3ユニットの中央に共有空間があり、卓球台やソファが置かれていて夕食後の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やソファーを利用している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や写真など置いている	
			(外部評価) 居室にはエアコン、収納棚、洗面台、ベッドが備え付けられており、和室には各部屋にトイレがある。窓や玄関引き戸に障子が使用されていて、職員と利用者が協力して張替えを行っている。馴染みの箆笥や椅子、テレビ、鏡等を持ち込んでいる利用者、位牌を置いて毎朝の祈りを欠かさない利用者もいる。また、壁には家族写真や手作りの作品が飾られ、居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害になっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている	